

審査の結果の要旨

氏名 朴 智妍

論文題目 同居空間でのテリトリーの現れ方に関する研究

本論文は、人のテリトリーを通じて同居空間における「違和感」の認識とその調整を把握し、住まいに居場所をつくる可能性を導き出すことを目的としたものである。

「違和感」とは自分の空間・行動領域の差、また家族間のテリトリーによって発生するもので、「居住要素」を通して調整されている。現代の住まいは家族の多様化に対応しきれず、人々は住まいに「違和感」を感じ、住まいに真の居場所を設けることが難しいという現状が背景にある。

第1章では、家族と住まいの変化と現状、同居生活の問題点を指摘し、関連既往研究を概観し、本研究を位置づけた。

第2章では、実態調査により、同居生活の「違和感」への認識や、その「違和感」をどのように調整しながら生活しているのかを把握した。

第3章では、「違和感」は自分の空間と行動領域の差によるものと考え、同居生活の「違和感」の理由を検討した。全体的に自分の空間より行動領域が狭くなること、一人の時より二人以上の時が、自分の空間、行動領域が狭くなること、人は同じ空間に誰かと一緒にいる時はそれを認識し自分のテリトリーを調整していること、家族関係によってお互いの領域の調整の仕方が違うこと、お互いの関係で誰の領域は侵入可能で誰の領域は不可能なのかなどを判断しながらお互い「違和感」をなるべく感じないようにしようとしていることを明らかにした。また「自分の空間と行動領域と家族の空間と行動領域」からみた家族関係は、「母領域共有型」、「領域侵入バランス型」、「領域解放型」があるとした。

第4章では、「違和感」を、「居住要素」をどのように利用して調整しているのか、家族関係と関連して把握した。「物の専・共」、「生活時間」、「コントロール家具」、「愛着家具」、「場所づくり」、「食卓の席」、「冷蔵庫の使い分け」、「共用空間にある物の所有」、「一人である時の侵入されたくない場所の維持」、「共用する部屋」、「二人以上である時の侵入されたくない場所の維持」、「鍵で自分の領域を維持」の順に利用率が高いことを明らかにした。「母領域共有型」は、自分のプライバシーを守ろうとする認識が強く、「共用空間にある物の所有」のように他の家族に侵入される可能性が高い居住要素は、あえて利用を避けていることを明らかにした。「領域侵入バランス型」は、家族構成員がお互い自分の空間・行動領域を調整することが重要視され、その調整のために必要な居住要素が「違和感」を解決する要素として多く利用されていることを明らかにした。「領域解放型」は自分の物や空間などを共用することで「違和感」を調整し、自分のプライバシーを守ろうとするよりは自分の空間・行動領域を家族と共用する認識が強く自分のプライバシーだけを守る居住要素はあまり使わない傾向にあることを指摘した。

第5章では、多様な住まい方を家族関係と居住要素を基準に傾向を把握し、居住形態を分類することで、多様化する住まいを把握する一つの方法として提案し、家族関係と居住要素から居場所を設けることの可能性を導いた。自分の空間・行動領域と家族の空間・行動領域の調整に利用している要素として「生活時間」、「物の専・共」、「コントロール家具」、「愛着家具」を取り上げ、これらの関係を分析した。居住形態には、「個室志向居住」、「相互調節居住」、「共用空間志向居住」があることを明らかにし「共用空間に置いてある専用の物」、「コントロール家具」、「愛着家具」が共用空間に多いほど、共用空間にいる時間が長くなり共用空間に自分の居場所をつくれる可能性があることを指摘した。

第6章では、結論として、人々は同居空間の中で「違和感」を感じ、それを居住要素を通して解決していること、それらは家族関係により異なり、自分の空間・行動領域が家族の空間・行動領域に侵入可能な関係ほど、お互いのテリトリーを侵入し合う居住要素を利用し調整しながら「違和感」を解決していることを明らかにした。また、テリトリーの調整が重要な共用空間では、お互いのテリトリーに侵入可能な関係ほど「共用空間に置いてある専用の物」、「コントロール家具」、「愛着家具」が多く共用空間にいる時間が長くなり共用空間に自分の居場所を設けることが可能になることを指摘した。

以上のように本論文は、住まいの同居空間における人々の空間・行動領域の差、また家族間のテリトリーによる「違和感」の認識とその調整方法の現状を把握することにより、住まいに居場所をつくる可能性を導き出した。

本論文は、多様化する家族とその住まい方に対して、今後の居住空間の建築計画、特に住まいにおける真の居場所のあり方を考える上で重要な知見を提示するものであり、建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。